

# れんげいニュース

Vol. 19



「季節の花に想いを寄せて」 佐々木 幸子

## <Contents>

- ◆ 新年度のご挨拶（由利組合総合病院 院長 佐藤 一成）…P②
- ◆ 新医局員・臨床研修医紹介…P③
- ◆ 診療部門紹介（看護部）…P④
- ◆ 診療チーム紹介（ICT/AST）…P⑤
- ◆ がん相談支援センターより…P⑥
- ◆ CKD シールについて…P⑦
- ◆ 介護連携セミナーを開催しました。…P⑧
- ◆ お知らせ…P⑧

## 新年度のご挨拶

# 令和は女性医師の時代か ～がんばろう男性医師～

由利組合総合病院 院長 佐藤一成



令和元年を迎え最初のれんけいニュースです。今年は平成の年始めと令和の年始めがあり、日本国中の盛り上がり方をみると二度のお正月を迎えたようでした。皆さまの中にはゴールデンウィーク休暇の前に思わず、「良いお年を！」などと挨拶をした方がいらっしゃるのではないのでしょうか。もしかして、もう一度お年玉をねだられた親御さんもいたりして。

さて、令和の新しい年度、当院には医師16名、看護師25名、保健師1名、放射線技師3名、検査技師1名、理学・作業療法士5名、臨床工学技士1名、事務6名が着任しました。ほとんどは退職者の補充や異動などによるもので正味の増員は僅かですが、新たな仲間の参加はとても喜ばしいものです。

今年は研修医が7名来てくれました。この3月に3名が研修を修了し病院を去ったので、研修医は実質的に4名の増加です。また、5名の女性医師が加わったので、病院全体で女性医師は14名（20%）になりました。近年徐々に増加しているのは好ましい傾向です。

ところで「女性医師」というと2年程前、米国医師会雑誌に「女性内科医師に治療された高齢者は、男性内科医師に治療された高齢者よりも死亡率と再入院率が低い」とする衝撃的な論文が掲載され話題になりました。その差は小さなもので死亡率の場合で0.43%に過ぎないのですが、米国の人口を考慮すると年間32,000人の差に相当するのだとか。これは女性医師の治療能力の優位性を示唆するので、病院で大勢を占める我々男性医師にとっては少々不都合な真実と言えます。さらに、この論文以外にも「女性医師は、より注意深く慎重に薬剤治療を進める」とか、「女性患者の心臓発作の治療成績は、男性医師より女性医師が良い」など、次々と女性優位な報告が出されました。

良い治療成績の理由として、女性医師は男性医師より、①エビデンスベースドメディシン（科学的根拠に基づいた医療）を励行する、②標準的な臨床検査に優れる、③患者中心の医療提供を行う、ことが上げられています。

これらの研究結果は特定の条件下で得られたもので、直ちに一般化されるものではありませんが、我々男性医師は謙虚にこれらの事実に向き合う必要があると考えています。

また昨年、大学の医学部受験生における「女高男低」の実態が伝えられ驚きでしたが、前述のことを踏まえて冷静に考えると、今後女性医師が増えて持ち前の能力を発揮するなら医療全体にとって良いことと言えるでしょう。先の論文では男性医師が女性医師とチームで診療すると男性医師のパフォーマンスが高まるとも述べています。一方、手術など男性医師に利のある診療領域があるのも事実です。男性医師、女性医師が協力して全体として最良の結果が得られるのが理想的です。その意味でも、令和時代での女性医師の増加傾向は、今後の地域医療に希望をもたらすものと捉えています。

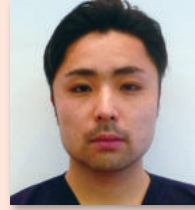
令和の時代も当院は地域の中核病院として積極的に地域医療・介護連携を推進して参りますので、今後ともよろしくお願いたします。

# 新医局員紹介

※( )：卒年 ①専門 ②趣味



泌尿器科 科長  
**千葉 修治** (H17)  
②ゴルフ



整形外科 医員  
**原田 俊太郎** (H28)  
①整形外科  
②減量



歯科口腔外科 医長  
**中谷 暢佑** (H23)  
①一般歯科、口腔外科  
②釣り、旅行



脳神経外科 医員  
**若狭 良成** (H28)  
②野球、ゴルフ、スノーボード



外科 医長  
**劉 嘉嘉** (H24)  
①消化器外科  
②映画



循環器内科 医員  
**安部 誓也** (H28)  
②バドミントン



消化器内科 医長  
**堀井 敏喜** (H27)  
②温泉

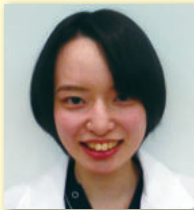


小児科 医員  
**小林 壮** (H28)  
②テニス



内科 医員  
**高橋 凧** (H28)  
②卓球、献血

## 臨床研修医紹介 (1年目)



梶原 知佳



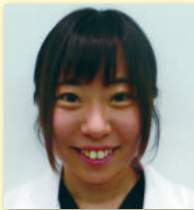
中西 真奈美



天野 千尋



入中 啓輔



鷺谷 みのり



高橋 吏



野崎 崇

## 部門紹介

## 看護部

当院看護部は保健師 7 名、助産師 15 名、看護師 372 名、准看護師 13 名、看護補助者 67 名、合計 474 名の大きな集団です。看護部の理念である「信頼される看護、優しい思いやりのある看護」を実践すべく日々研鑽を積んでおります。

地域住民の方々とのふれあい、繋がりを大切にするという思いから、毎年 5 月、ナイチンゲールの誕生日である看護の日の健康相談や、9 月の JA 祭りでの健康相談ブースの開設、11 月の病院祭でのパステルアートや白衣体験コーナー、喫茶コーナーなど様々な催しを行っています。

健康相談では、血圧測定だけでなくたっぷり時間をかけて、日々の生活面で注意する事や受診についてのお話をさせていただいております。看護職員には「忙しい」というイメージがあるかもしれませんが、地域の皆様とふれあうことができる時間はとても貴重で、これからも続けていきたいと考えております。

また、地域の中학생対象の夏休み期間のボランティア体験をはじめとし、高校生の 3 日間のインターンシップ、1 日看護学生、看護学生の病院見学会やインターンシップも計画的に実施しています。「看護」の仕事を身近に感じてもらえるように趣向をこらしながら継続していきたいと思っています。



<看護の日の風景>



<病院祭の様子>



<インターンシップのひとコマ>

## 診療チーム紹介

## ICT (感染制御チーム) / AST (抗菌薬適正使用支援チーム)

当院では、感染対策室を中心に多職種からなる感染制御チームが院内ラウンドを行い、感染防止対策の質向上に取り組んでいます。1987年(昭和62年)8月に院内感染対策委員会が発足され、委員を中心に院内感染防止対策の推進を図ってきました。

ICT= Infection Control Team  
(感染制御チーム)

2011年(平成23年)7月には、委員会の実働部隊としてICTが結成され活動が開始されました。また、2012年(平成24年)5月には、ICTの活動拠点として感染対策室が設置され、専従看護師と専任の医師・薬剤師・検査技師などが配置されました。ICTは、病院長直轄の組織として、各職種からなるスタッフが、感染防止対策に関する情報を集約し、組織横断的な活動を行います。

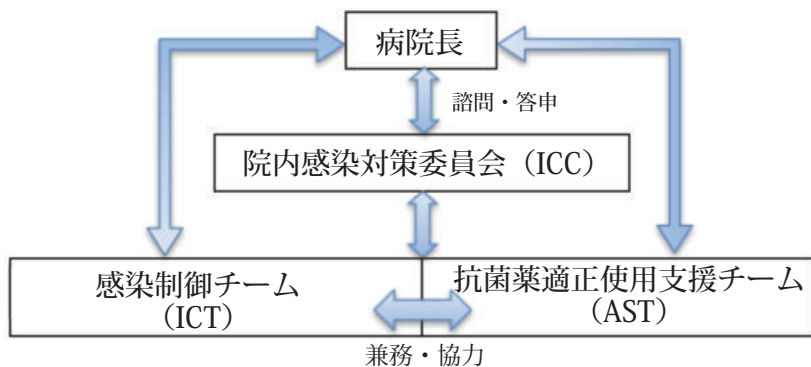
院内外を問わず、総合的な感染防止対策に資する活動を展開しています。感染症診療や治療に関すること、教育などの病院感染防止に関すること、職員の健康管理に関すること、地域における感染防止対策の啓発活動、病院連携などを行っています。

AST= Antimicrobial Stewardship Team  
(抗菌薬適正使用支援チーム)

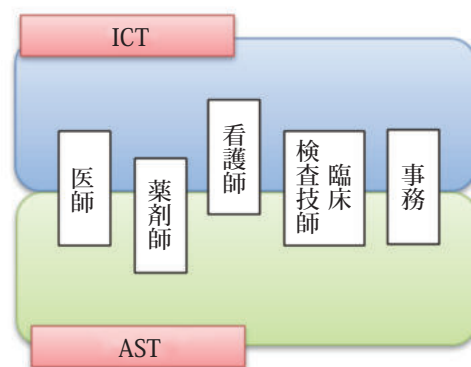
2018年(平成30年)4月に発足したASTは、近年問題となっている抗菌薬の薬剤耐性問題を、厚生労働省が舵取りを行い進めているアクションプランを実践すべく発足されたチームです。

感染症治療の早期モニタリングとフィードバック、微生物検査・臨床検査の利用の適正化、抗菌薬適正使用に係る評価、抗菌薬適正使用の教育・啓発等を行うことによる抗菌薬の適正な使用の推進を行っています。

● ICT / ASTでは、院外からのコンサルテーション(相談)にもお答えいたします。



【病院でのチームの位置づけ】



【チームの関係性】



【院内ラウンド】

## 由利組合総合病院のがん相談支援センターをご活用下さい

がん相談支援センター専従看護師 打矢和子

### ☆がん相談支援センターとは？

当院のがん相談支援センターは、地域がん診療病院として国から定められた相談窓口として設置されています。がん患者さんやご家族、地域住民の方々がどなたでも、いつでも、どんなことでも、相談しやすい場の提供と共に、相談者の不安や悩みに対して共に考える役割を果たしております。



### ☆5大がん地域連携クリニカルパスの活用ができます

5大がん地域連携クリニカルパスは、胃・大腸・肝・肺・乳癌患者さんの中で適応条件内の患者さんより希望があった場合、かかりつけ医と手術病院医が2人主治医制で連携しながら、がん患者さんが安心して療養生活ができるよう支援を継続しております。

### ☆がん患者さんの治療と就労の両立支援を開始する予定です

就労世代のがん患者さんの増加に対して、昨年からがん患者さんの就労支援の準備をはじめ、今年度から患者さんや主治医、産業医と連携しながら、治療と就労の両立支援を開始したいと考えております。

### ☆サロン『おひさま』を毎月開催しております

がん患者さんを中心にどなたでも自由に参加できる学習会や茶話会の機会として、院内でサロン『おひさま』を毎月第2火曜日に開催しております。

### ☆院外サロン『おひさま』を毎年1回開催しております

今年度は、5月25日に「がんと共に生きる」と題し、講演会を療養中の患者様より「がんはこわくない」、茶話会では立場（患者・家族・遺族・医療従事者・関心のある方）の異なる方々が5グループに分かれ、語り合う時間を設けました。参加人数は講演会26名、茶話会24名で、参加者の方から「わかりやすく、心に響く講演だった。」「自分と共通点があり、感動する講演だった。」「いつもなかなか話せない貴重な話ができた。」「大変満足な会だった。」など意見を頂きました。

### ☆がん患者さんの憩いのスペースを用意しております

がん相談支援センター隣の入院支援相談室内にがん患者さんやご家族が休めるスペースとして、『ホッとひといき』部屋を確保しています。その中に、『ホッとひといきぶんこ』として由利本荘市中央図書館の協力で、本70冊設置して、毎月入れ替え、貸し出しもしています。

是非、おひとりでお気軽にご利用下さい。

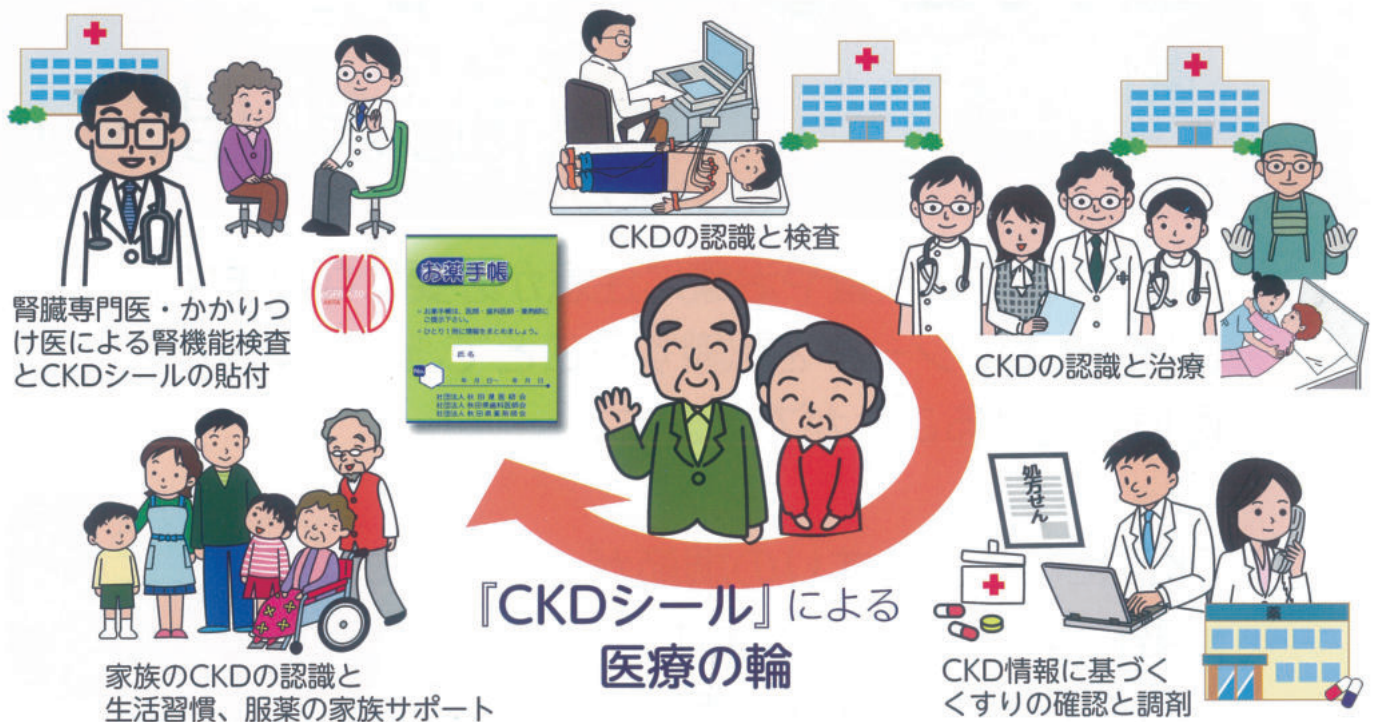


# CKDシールについて

慢性腎臓病(CKD)になると、腎臓の働き(腎機能)が悪くなります。すると、くすりが体から出ていきにくくなるため、くすりの影響を受けやすくなります。そのため、慢性腎臓病の患者さんでは、状態に合わせてくすりの種類や量を調整する必要があります。

そこで当院では、慢性腎臓病の患者さんを医療従事者が把握することを目的として、「お薬手帳」にCKDシールを貼る取り組みを開始しました。これにより、保険調剤薬局や他の病院でも腎機能の状態が分かるようになるため、くすりの種類や量のチェックが可能となり、適切な薬物療法を行うことができるようになります。シールを貼る際は、医師、薬剤師よりパンフレットを用いて詳細を説明し、患者さんの同意を得たうえでお薬手帳に貼ります。説明があった際には、ご理解とご協力よろしくお願いたします。なお、本取り組みは、秋田大学医学部附属病院腎疾患先端医療センターと連携し実施しております。

お薬手帳は常に携帯し、検査・治療・処方を受ける際には、必ず提示するようにしましょう。



図：秋田大学医学部附属病院 腎疾患先端医療センターより

## 介護連携セミナーを開催しました。

地域医療連携室では、医療と介護の連携体制の推進の一環として介護連携セミナーを今年度も引き続き開催します。

### 第1回 介護連携セミナー

日時：令和元年5月16日(木) 18時～19時

場所：由利組合総合病院 2階講堂

#### ●リロケーションダメージを予防しよう

認知症看護認定看護師 土門 典子

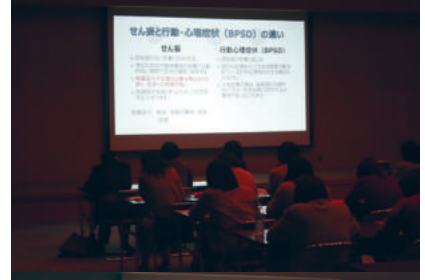
住み慣れた場所から別の場所への移転が「生活の落差」に繋がり、認知症の症状が悪化することがあります。病院への入院や転院、施設の入所などにおいてもリロケーション・ダメージは起きる可能性があります。

リロケーション・ダメージを予防していくためには、「生活の落差」を最小限にする環境づくりが大切であり、「点」から「線」で切れ目ない関係性を築いていく必要性について事例を交えて講演していただきました。

<今後の開催予定（令和元年9月まで）>

8月：救急時のいつもと状態が違う場合の対応について（救急看護認定看護師）

9月：移乗に関する体の使い方や体勢の整え方について（リハビリテーションセンター）



## お知らせ

### 患者様のご紹介は、連携室へ

- 外来診察日の変更や人数制限等がある場合もありますので、事前にFAXにてお申込みいただけますと受診日を調整し、FAXにて受診票をお返しいたします。
- 各申込様式は、当院のホームページからもダウンロードできますのでご利用ください。
- 個人情報の取扱い（記載間違いなど）には十分に注意していただきます様、ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

#### \*MRI・CTの申込について\*

- 『診療申込書』をFAXでお送りください。MRIの場合は『チェックリスト』も一緒にお送りください。
- ※造影申込の際は、MRI・CTともに『同意書』と『クレアチニン値』が必要です。

#### \*診察希望医師の指定について\*

- 新患の患者様の場合やご紹介の内容によって新患担当医師または専門医師が診察を行うことがあります。
- 診察医のご希望がある場合は、『診療申込書』にその旨をお書き添えの上、お申し込み下さい。

### ★由利組合総合病院 地域連携センター★

月曜日～金曜日（祝祭日を除く）8：30～17：00 ※時間外は救急室へご連絡お願い致します。

地域連携・入退院支援 TEL 0184-27-1293（直通） 医療福祉相談 TEL 0184-27-1264（直通）

FAX 0184-27-1318（直通）